

平成 29 年 6 月 22 日

平成 28 年度 大学院修士課程・博士前期課程の 教育の成果に関するアンケート調査の結果について

1. 調査の概要

この調査は平成 28 年度の修士課程・博士前期課程修了者を対象として、大学院教育の成果について質問したものである。実施期間は平成 29 年 2 月 8 日から 3 月 31 日までであり、修了対象者 49 名に学内ポータルサイトを通じた web 調査により実施した。回収数は 28 名、回収率は 57.2%であった。回収率は昨年度の 21.3%、一昨年度の 22.5%と比較して大幅に上昇した。また項目内容や調査方法についても一部変更した。

2. 調査結果の概要

調査の詳細な集計結果については別紙に示すが、全体的な傾向や目立った特徴について述べる。また項目内容や調査方法について修正を行ったため、例年行っている前年度との比較は控えた。

1) 修了後の進路について

進路先については 71.4%が希望した職種に就職しており、進路についての満足度は、82.1%（とても満足・満足を選択した割合）であり、比較的高い満足度が得られている。

2) 大学院在学中の学内外の活動について

大学院の様々な学習や活動を「講義科目」「演習」「実験・実習」「学会発表」「修士論文作成または課題研究」「大学院教育全般」に分け、それぞれへの積極性を尋ねたところ、「実験・実習」、「修士論文作成または課題研究」に積極的に取り組んでいると評価している。これらと比較し「学会発表」については消極的な傾向があり、学会発表については積極的な学生と消極的な学生に分かれる傾向が伺える。

学習以外の活動では、「学外での勉強」や「アルバイト」に積極的に取り組んだ学生が多かった。他方で「留学」や「海外旅行」などの海外への活動にはかなり消極的な学生が多かった。

大学院入学後の能力や知識の変化については、「専門知識」や「一般教養」、「分析能力・問題解決能力」、「コンピュータの操作能力」については大きく向上したと感じていた。「異文化の人々に関する知識」、「異文化の人々と協力する能力」、「リーダーシップ」、「数理的な能力」については、半数近い学生が変化していないと回答していた。異文化への知識や協調といった点は、上記学習以外の活動での海外への消極性と類似した傾向を示している。

本学の教育内容や教育環境に関する満足度は、「指導教員からの指導」や「修士論文作成」については、かなり満足度が高い。これらと比較すると授業内容等については、満足度が低い傾向がある。

3) 帯広畜産大学の大学院生活全般について

大学院の教育目標の達成については、77.8%が「おおむね達成していると思う」と答えており、大学院学生からみた教育目標と教育内容が合致していると評価されているといえる。

ディプロマポリシーに掲げた能力について、全体の傾向としては、大半の大学院生が獲得できてと感じている。ただし、「獣医・農畜産融合の視点からの、食料の生産から消費についての高度な知識と倫理観 (DP1)」については、「そう思う」が7.4%、「どちらかといえばそう思う」が66.7%であり、他のDPと比較すると低い傾向がある。

帯広畜産大学の大学院に進学し、そこで学んだことへの満足度では、「とても満足している」が33.3%、「どちらかといえば満足している」が63.0%であり、大半の学生が満足していることがわかる。

以上